

# ロシア派遣留学で学んだこと

国際学部 2 年 長部亮太

<はじめに>

私は、最初留学に行くかどうか相当悩みました。今年のロシアコースは女の子 5 人、男の子 1 人という状況の中で、留学に行く決心が付いたのは、自分の心の中に二つの理由があったからだと思います。一つ目は、自分自身を変わりたいと思ったからである。私は、自分に自信を持って行動したり、自分の考えや意見を相手に伝えたりすることが苦手だった。ロシアに行って、実際に生活することによって、自分の考えや意見を相手に言わなければならないし、自分のことは自分でしないといけないので、自分自身に自信が付くと思った。また、ロシア組の女の子と日々生活することで、女の子と接したり、お互いに協力して課題や宿題をしたりすることで、自然と女の子と話すことができるようになり、それが、自分自身の成長につながると思った。私は、平和学の授業で「エキスポージャ」という単語の意味を知った時、ロシアに行きたいという気持ちが強くなったと思う。実際にロシアに行き、そこでしか味わえない言語や文化や生活を学ぶことによって、自分自身が変われることを聞いたときに、自分がなにもかも知らないロシアに行って、そこで生活してみたいと強く思った。現地に行って、ロシア語を学ぶことは、今しかできない経験だと思うし、ロシア語で自分の考えや意見を述べることができれば、ロシア語の勉強が楽しくなり、それが、自分自身に自信が付き、さらに、自分からロシア語の勉強ができると思った。二つ目は、大学生活を悔いなく過ごしたいと思ったからである。私は、大学に入る前、たくさんの挫折や後悔を経験してきた。だから、留学に行き、そこで、たくさんの友達を作ったり、ロシア組の女の子と話したりすることで、大学生活を楽しみたいと思い留学に行くことを決意しました。

<ウラジオストクでの授業>

授業が始まって最初の頃は、どの先生のロシア語も何を言っているのか分からず、「この先どうなるだろう」と不安しか頭にありませんでした。最初の 1 か月くらいは、宿題の内容が分からなかったり、授業の内容もあまり理解できなかったりして、先生に怒られたこともありました。このままでは、授業が遅れると思い、私は、その日のうちに、授業に習ったことを復習し、分からなかった単語を調べるなどしたことによって、少しずつではあるが、先生たちが言っているロシア語が分かるようになり、成長を感じました。私は、ロシアの授業の中で、ロシア語の詩を覚えて、それを先生の前で、早口で暗唱することが難しかったです。ロシア語の詩を覚えて暗唱することができても、発音がうまく言えなかったり、発音が間違っていたりすると、先生は、正しくロシア語が言えるまで何度も練習を

させました。おかげで、最初の頃に比べると、すらすらとロシア語の詩を言うことができ  
てよかったです。また、ロシア語は、特に文節が最も大事な言語であると授業で教わりま  
した。文節を意識して言わないと、ロシア語の発音が曖昧になり、先生に伝わらず注意す  
ることもありました。だから、文節を意識して、大きな声で発音をすることで、相手に初  
めて伝わることができると学びました。授業は、朝の 8 時 30 分から始まり、11 時 40 分ま  
であり、文法、リスニング、長文、会話など、さまざまな授業がありました。お昼を挟ん  
で、午後から地理、音楽、歴史、美術などの授業がありました。私たちのクラスは日本人 3  
人、韓国人 2 人、中国人 5 人、ラオス 3 人の人たちと授業をしました。中には、韓国の小  
学生の男の子と一緒にロシア語の授業を受けていて、私より、ロシア語が上手だったので、  
驚きました。毎日宿題が出されて大変だったけど、おかげで、自分からロシア語の勉強を  
する習慣が身に付き、もっとロシア語を学びたいという気持ちが強くなってよかったです。  
宿題の中で、自分が住んでいる地域や自分が通っている大学を紹介する宿題が出されまし  
た。ロシア語で文章を作るのは大変だったけど、ロシア語で文章を作ることで、先生に自  
分住んでいる地域や大学を紹介できてよかったです。会話の授業では、単語テストがあ  
ったり、2 人組になって、教科書の課題を話し合っ、ロシア語の文章を作って、先生に発  
表したりする難しい課題だったけど、ロシア語で文章を作ることによって、飛躍的にロシ  
ア語の文章を書く力が身につけられたのでよかったです。私が、ロシア語の授業の中で、  
好きだったのは、エカテリーナ先生の歴史の授業とスベトラーナ先生の音楽の授業が好  
きだった。歴史の授業では、ロシアの歴代の皇帝などをパワーポイントを使って紹介する  
授業だった。毎週授業が終わる時に、授業で習った皇帝に関する宿題が出された。その皇  
帝に関する長文が出されて、その問いについて答える問題があったりして、大変でした。  
それでも、宿題をやっていると、その皇帝について重要なことや大事なことがわかり、今  
まで、苦手だと感じていた歴史の授業が好きになりました。授業の後半になると、地理と  
歴史の両方をパワーポイントを使って発表する授業がありました。地理では、ロシア沿海  
地方に関する地域をグループごとに分かれて発表したり、歴史では、先生が留学のメンバ  
ー1 人ずつにロシアの歴代の皇帝の名前を言った後、その皇帝について簡単にまとめて、パ  
ワーポイントを使って発表したりする授業もありました。私が、楽しみにしていた音楽の  
授業では、スベトラーナ先生と一緒にロシアの伝統的な楽器を曲に合わせて叩き、カチ  
ューシャなどのロシアの歌を留学のメンバーと一緒に歌えたことが楽しかったです。



### < 韓国の留学生との交流 >

私たちが、最初に大学の寮に行った時、そこには韓国の留学生が出迎えてくれた。初めて見る韓国の人に対して、私は、「彼らと一緒に生活できるかな」、「彼らと仲良くすることができるかな」と頭の中で、さまざまな不安がありました。私と一緒に生活することになった Hunchan という韓国の留学生は、僕のことを弟のようにかわいがってくれて、一緒に夕食を作ったり、遊んだりして、親交を深めることができました。また、韓国の留学生と一緒にウラジオストクの中心部に行き、一緒にご飯を食べたり、ボーリングをしたりして交流を深めることができました。韓国の留学生はみんなやさしい人たちで、僕のことを気遣ってくれて、気さくに話かけてくれるので、とてもうれしかったです。韓国の留学生の女の子と仲良くなったのは、12月の始めの頃だったと思います。それまでは、韓国の留学生の女の子と交流することがなかったのですが、韓国の留学生の女の子と一緒に遊ぼうと、誘ってくれて、ウラジオストクの中心部に行き、ピザを食べたり、ビリヤードをしたりして、楽しいひと時を過ごすことができました。お別れの日が近くなると、もう少し、韓国の留学生と一緒に遊んだり、触れ合ったりする時間がほしかったです。正直、お別れしたくなかったです。お別れする日になると、もう少し一緒にいたいという気持ちが強くなり、別れ際に涙を流しました。ある韓国の留学生の女の子が僕に向かって、「涙だめだよ」と優しく言ってくれて、なおさら涙を流したことを覚えています。

## <ウラジオストクでの生活>

寮から大学までとても近く、毎日快適に行くことができました。私の寮は、韓国の留学生と共同で使っていました。部屋には、2段ベッドや勉強机やクローゼットがあり、毎日の生活の中で、困ったことはありませんでした。買い物は、大学の近くにあるスーパーをよく利用していました。私は、実家暮らしなので、料理を作ったことがなく、スーパーに行っても何を買えばよいかわからず、最初は大変でした。スーパーには、たくさんの乳製品が売っているのが、印象に残りました。私は、朝はかなり早いため、事前にスーパーに買っておいた、バナナやコーンフレークなどを食べていました。昼食は、大学の近くにある屋台に行って、ピロシキやシャベルマという（トルティーヤみたいなもの）をよく買って食べたり、カップラーメンで手短に済ませたりすることもありました。夕食は、韓国の留学生と一緒にケチャップライスを作ったり、炒めものを作ったりしました。寮の生活はとても快適だったけど、12月頃になると、ウラジオストクでは一段に寒くなるので、足元が寒く、部屋の暖房が数日間効かず、寒いまま生活していました。私たちがロシアに行った9月は、まだ暖かく半袖で過ごしていました。ウラジオストクの気候は、ずっと晴れることが多く、雨が滅多に降りませんでした。12月頃になると、先生が「今日の気温はマイナス3度だよ」と言って、外を見てみると、辺り一面に雪が降っていました。外に出掛けるとき、防寒具やマフラーやセーターなどは必需品で、わたしは、日本からあまり持って行かなかったため、ウラジオストク市内で防寒具を買ったりしました。また、スーパーに行った時、小銭がなくなって、お札を出したとしても、たまに、「小銭はないの」と聞いてくる店員はいるが、大抵は、お札を出しても大丈夫なことが分かりました。

## <ウラジオストクの体験>

私は、休日になると、よく海の方に散歩しました。周りには、アイスクリームの屋台やお土産を売っている屋台などがありました。海の近くに遊園地があり、留学のメンバーと一緒に観覧車に乗って、そこから見える海の景色は、とてもきれいでした。ウラジオストクの海は、一面に澄んでいて、触ってみると、とても冷たかったです。冬になると、ウラジオストクの海は一面に凍っていて、凍っている海の上を実際に歩くことができました。休日になると、ウラジオストクの広場には、たくさんの市場が並んでいました。市場には、たくさんの乳製品や新鮮な魚や野菜などが売られていました。市場に売っているおかしは、量り売りで、ロシア語で“～グラムください”という袋に詰めてくれて値段もとても安かったです。ウラジオストクの中心部では、ラーメンやお寿司といった日本料理店があったり、頻りに日本の自動車が走っていたり、日本の製品の自動販売機などを目にするのができた。また、ウラジオストクの中心部には、たくさんのカフェがあり、少しくつろぎ

たいときや、休憩したいときによく利用していた。おいしいケーキやキッシュなどが売られていて、値段も日本と比べると安かったです。また、留学のメンバーと一緒に本場のロシアのスケートを体験することができた。最初は、氷の上を立っただけで、すぐに転んでしまったけど、何回も練習をしているうちに、少しずつではあるが、氷の上を滑れるようになったので、よかったです。



### <イベント>

スベトラーナ先生が私たちのために、たくさんのイベントを計画してくれました。オペラやサーカスや水族館や本場のスケートなど、さまざまな所に連れてってくれました。その中で、私が、思い出に残ったのは、韓国の留学生と一緒にいった動物園が思い出に残りました。動物園では、シカやトラやクマなど、たくさんの動物を見ることができた。また、ロシアの動物園は広大な森林のところに動物が暮らしていて、間近に動物を見ることができて、癒されました。ロシアの本場のスケートは、アナと雪の女王の曲に合わせて華麗に滑るところは迫力があり、なりより美しかったです。

### <留学を通じて得たもの>

私は、留学を通じてたくさんのことを学んだと思う。留学に行く前は、さまざまな不安があり、「留学に行かないほうがよかったのではないだろうか」と考えることもありました。それでも、最後までやれることができたのは、ロシア組の女の子のおかげだと思っています。ロシア組の女の子たちが、やさしく接してくれたり、話しかけたりしたおかげで、私は、安心して生活することができました。以前は、女の子と話すことが苦手で、女の子と

距離を置いていましたが、これをきっかけに、女の子と話すことができました。ロシア組の女の子には、大変感謝しています。私は、留学を通じて、少しではあるが、自分に自信を持って行動することができたと思う。ロシアでの授業やパワーポイントを使って発表することによって、人前に出て発表したり、積極的にロシア語で話したりすることができたと思う。自分に自信を持って行動したり、話したりすることで、相手のことについてたくさん知ることができたし、お互いのことについてわかるので、自分の視野を広げることができるかと学びました。私は、留学を通じて一番学んだことがあります。それは、自分自身が何かしたいことや、やってみたいことがあったら、迷わず挑戦することだと思います。自分自身が行動に移すことができれば、人生を楽しむことができると学びました。私は、留学に行くかどうか、締切のぎりぎりまで悩みました。もし、私が、留学に行かなかったならば、おそらく、友達と話すだけの平凡な日々を送っていたと思う。しかし、留学に行き、たくさんのことを学ぶことによって、自分自身に成長することができるとわかった。私は、留学に参加できて本当によかったです。前よりは、自分に自信を持つことができたと思うし、留学のメンバーと一緒に勉強したり、話したりすることができて本当によかったです。留学で学んだことを生かし、ロシア語の勉強を取り組み、これからの大学生活を



楽しみたいと思った。